

震災をのりこえ、まちを元気に。

三本塚地区の絆を守る取り組み

●ご近所さんから顔見知りに

三本塚の春、水をたたえた水田は海原のような表情を見せる。水面には雲が流れ、青々とした居久根(イグネ)が映り込む。そんな三本塚の原風景を守るために、取組を始めたのが三本塚町内会の小野吉信さんだ。

「地域の高齢化が進み、昔は総出でやっていた二郷堀や井戸堀の手入れがままならない状況になったんです。堀は農作の命脈です。みんなが笑顔になれる地域を守るため、子ども会も青年部もJAも巻き込んで、ゴミ拾いやグリーン作戦を始めました」。作業の後はみんな一緒に「なんだり、かんだり」。漬物や手料理を持ち寄ってワイワイ過ごすのが恒例だ。野菜作りのコツも相談ごとも。いつの間にか「ご近所」から「顔見知り」の関係に変わり、住民同士の「人の輪」が広がっていった。

●若い世代を増やし、再生へ

海から約2kmの三本塚は、津波で2m浸水。「避難所は混乱状態でしたが、みな顔見知りだったおかげで、すぐ安否確認できました」と小野さん。全国や海外の方々の支援も多かったそうだ。農業や地域の復興を話しあう中で絆もより深まった。「今、三本塚は確実に世帯が戻りつつあります。若い世代が増えて、やぐら太鼓が聞こえる盆おどりを復活できたら」と笑顔。

取材時には、奥さまが手作りの煮豆をふるまってくれた。あたたかなもてなしは、小野さんたちがつくり上げた三本塚の心根であるように感じた。



津波避難タワー周辺で行った「花壇づくり」の様子。住民の笑顔が集う場になっている。



file no.1

小野吉信さん

地域に根付く「地元のプロ」にインタビュー。
1回目は三本塚地区で、まちおこしに取り組む小野さんです。

いいと思ったら、行動する！が信条。依頼されたら断りません。



転勤で東北各地へ。うまい店に詳しいです。

生まれも育ちも三本塚。青年団の時は祭りを復活させました。

